

## 平成 29 年度地域間幹線系統確保維持計画

### 1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性

千葉県では、輸送需要の減少により地域住民の日常生活に必要なバス路線の維持が困難となっている現状にかんがみ、千葉県バス対策地域協議会において市町村をまたがる広域的・幹線的路線であり、地域住民の通勤、通学、通院などに利用される移動手段として必要なものとして認められた生活交通路線のうち一定の要件を満たす路線について、補助金を交付することによりバス路線の運行の維持を図っている。

各系統の目的・必要性、目標、効果、取組は以下のとおり。

#### ○各系統の目的・必要性、目標、効果、取組

No.	事業者名	系統名	起点・終点 (主な経由地)	1. 目的・必要性	2. 目標		3. 効果	4. 取組
					指標	目標値		
					達成すべき効果・変化の尺度	設定した指標の達成すべき数値		
1	小湊鉄道(株)	牛久線	茂原駅南口・牛久駅 (長南営業所)	市原、長生、茂原高校への通学。 沿線住民の最寄駅までの交通手段。	平均乗車密度を維持する。	3. 8	乗車密度を維持することにより、補助額の増加を抑止する。	関係市町に協力を仰ぎホームページ・広報に掲載しPRを図る。ダイヤ改正を実施し小湊鉄道との接続を図る。
2	小湊鉄道(株)	大多喜牛久線	大多喜車庫・牛久駅 (循環器病センター)	・市原市、大多喜町住民の循環器病センターへの通院。 ・大多喜高校、市原高校、鶴舞桜が丘高校への通学 ・鶴舞BTから都心への通勤・通学。	平均乗車密度を維持する。	4. 3	乗車密度を維持することにより、補助額の増加を抑止する。	関係市町に協力を仰ぎ、ホームページ・広報に掲載しPRを図る。小湊鉄道や市原鶴舞バスターミナルにチラシを設置し当路線をPRする。
3	小湊鉄道(株)	茂原長南線	茂原駅南口・長南営業所	・長生、茂原高校への通学。 ・沿線住民の茂原駅までの交通手段。	平均乗車密度を維持する。	2. 7	乗車密度を維持することにより、補助額の増加を抑止する。	関係市町に協力を仰ぎ、ホームページ・広報に掲載しPRを図る。また、沿線の主要施設に時刻表を掲示してもらい、利用者の増加を目指す。
4	小湊鉄道(株)	茂原ロングウッド線	茂原駅南口・ロングウッドステーション	・長柄小学校、長生・茂原高校への通学。 ・茂原市、長柄町住民の茂原駅までの交通手段。	平均乗車密度を維持する。	3. 3	乗車密度を維持することにより、補助額の増加を抑止する。	関係市町に協力を仰ぎ、ホームページ・広報に掲載しPRを図る。ロングウッドステーションのイベントに併せて当路線の周知を図る。
5	小湊鉄道(株)	塩田ロングウッド線	塩田営業所・ロングウッドステーション	・市原市から生浜高校、市原市神崎・喜多地区の児童の湿津小学校への通学。 ・長柄町・市原市住民の最寄り駅までの交通手段	平均乗車密度を維持する。	3. 6	乗車密度を維持することにより、補助額の増加を抑止する。	関係市町に協力を仰ぎ、ホームページ・広報に掲載しPRを図る。ロングウッドステーションのイベントに併せて当路線の周知を図る。

No.	事業者名	系統名	起点・終点 (主な経由地)	1. 目的・必要性	2. 目標		3. 効果	4. 取組
					指標	目標値		
					達成すべき効果・変化の尺度	設定した指標の達成すべき数値		
6	九十九里鉄道株式会社	片貝循環 豊海線	東金駅・家徳・幸田・東金駅	東金駅への通勤通学者の輸送。九十九里高校への通学。浅井病院への通院。駅前商業施設への買物客の輸送	利用者数の維持および増加	年間輸送人員 24,000人	収支の改善	鉄道との接続、分かりやすい時刻表の整備、利用実態に合わせた運行計画の見直しの検討や、沿線市町により、HPや広報誌等でPRを行う。
7	日東交通(株)	馬来田線	木更津駅東口 ・茅野 (清見台東・横田)	・横田・清川・祇園・清見台沿線地区から木更津駅までのアクセスとして必要。 ・東邦病院への通院に必要。	平成27年度の平均乗車密度2.1を維持させる。	平均乗車密度2.1 (平成27年度値)	バスの利用環境を向上させ、利用者の増加が図られる。	・関係各市と連携し、バスの利用促進(PR等)に努めると共に、弊社で行っている利用促進イベントや地元タウン誌への路線紹介の掲載を続けていく。 ・路線図に路線沿線の名所など観光スポットなども載せてPRし、路線沿線住民のかた以外のお客様を取り込んでいく。
8	日東交通(株)	三島線	木更津駅西口 ・中島 (八重原)	・小糸・八重原地区から君津中央病院への通院、及び木更津駅までのアクセスとして必要。 ・君津特別支援学校・上総高校への通学に必要。	平成27年度の平均乗車密度3.5を増加させる。	平均乗車密度3.6以上	バスの利用環境を向上させ、利用者の増加が図られる。	・関係各市と連携し、バスの利用促進(PR等)に努めると共に、弊社で行っている利用促進イベントや地元タウン誌への路線紹介の掲載を続けていく。
9	日東交通(株)	姉ヶ崎線	姉ヶ崎駅・茅野 (平岡小前)	・馬来田・上泉から姉ヶ崎駅までのアクセスとして必要。 ・角栄団地から姉ヶ崎駅までの通勤・通学等のアクセスとして必要。 ・都立しいの木特別支援学校への通勤・通学のアクセスとして必要。 ・姉崎病院へのアクセスとして必要。	平成27年度の平均乗車密度4.5を増加させる。	平均乗車密度4.6以上	姉ヶ崎駅でのアクセス向上が図られ、輸送量が確保されるとともに、利便性の向上が図られる。	・JRのダイヤ改正時には接続を考慮した時刻変更をする。運行時刻を変更した際には関係各市に協力してもらい広報活動を実施する。 ・弊社で行っている利用促進イベントや地元タウン誌への路線紹介の掲載を続けていきPRを行う。
10	日東交通(株)	姉ヶ崎線	姉ヶ崎駅・茅野 (桜台団地)	・馬来田・上泉から姉ヶ崎駅までのアクセスとして必要。 ・桜台から姉ヶ崎駅までの通勤・通学等のアクセスとして必要。 ・都立しいの木特別支援学校への通学として必要。 ・姉崎病院へのアクセスとして必要。	平成27年度の平均乗車密度4.6を維持する。	平均乗車密度4.6 (平成27年度値)	姉ヶ崎駅でのアクセス向上が図られ、現状の輸送量が確保されると共に、利便性の向上が図られる。	・JRのダイヤ改正時には接続を考慮した時刻変更をする。運行時刻を変更した際には関係各市に協力してもらい広報活動を実施する。 ・弊社で行っている利用促進イベントや地元タウン誌への路線紹介の掲載を続けていきPRを行う。
11	日東交通(株)	君津市内循環線	八重原A3棟前・君津駅北口 (君津製鐵所・君津健康センター)	・新日鐵住金君津製鐵所、及び関連企業の通勤として必要。 ・八重原、大和田、畑沢地区の君津駅までのアクセスとして必要。 ・君津特別支援学校への通学として必要。	平成27年度の平均乗車密度3.5を維持する。	平均乗車密度3.5 (平成27年度値)	君津駅でのアクセス向上と君津製鐵所までの利用者の増加。	・乗降調査による実態把握に努め、関係機関と協議をして運行計画の見直しを図る。 ・弊社で行っている利用促進イベントや地元タウン誌への路線紹介の掲載を続けていきPRを行う。

No.	事業者名	系統名	起点・終点 (主な経由地)	1. 目的・必要性	2. 目標		3. 効果	4. 取組
					指標	目標値		
					達成すべき効果・変化の尺度	設定した指標の達成すべき数値		
1 2	日東交通(株)	畑沢線	木更津駅西口 ・君津駅南口 (東畑沢・陽光台)	・畑沢地区・君津駅から君津中央病院までの通院として必要。 ・畑沢地区から君津駅までの通勤等のアクセスとして必要。	平成27年度の平均乗車密度2.5を維持する。	平均乗車密度2.5 (平成27年度値)	現状の輸送量が確保されると共に、利便性向上が図られる。	・弊社で行っている利用促進イベントや地元タウン誌への路線紹介の掲載を続けていきPRを行う。 ・乗降調査による実態把握に努め、関係機関と協議をし運行計画の見直しを図る。
1 3	日東交通(株)	かずさアカデミアパーク線	木更津駅東口 ・かずさ小糸南 (かずさパーク)	・かずさアカデミア進出企業の通勤として必要。 ・ほたる野・太田地区から木更津駅までのアクセスとして必要。	平成27年度の平均乗車密度3.6を維持する。	平均乗車密度3.6 (平成27年度値)	利用者が増加し、収支改善が図られる。	・関係各市の協力を得て、進出企業に対し利用促進を図る。 ・弊社で行っている利用促進イベントや地元タウン誌への路線紹介の掲載を続けていきPRを行う。 ・進出企業から要望があれば、新設停留所を設置するなどして利用の促進を図る。
1 4	日東交通(株)	富津線	木更津駅西口 ・富津公園 (青堀駅)	・桜井地区学童の木更津第二小学校への通学に必要。 ・富津沿線地区から青堀駅までのアクセスとして必要。 ・桜井地区から木更津駅までのアクセスとして必要。 ・新日鐵住金君津製鉄所及び関連企業の通勤として必要。	平成27年度の平均乗車密度5.0を増加させる。	平均乗車密度5.3 (平成28年度目標値)	木更津駅、青堀駅でのアクセス向上が図られ、現状の輸送量が確保される。	・JRのダイヤ改正時には接続を考慮した時刻変更をする。運行時刻を変更した際には関係各市に協力してもらい広報活動を実施する。 ・弊社で行っている利用促進イベントや地元タウン誌への路線紹介の掲載を続けていきPRを行う。 ・夏休み期間中のジャンボプールへの乗入のPRのため、関係各市に協力をお願いし、沿線の学校に時刻表入りのチラシを配布する。
1 5	天羽日東バス株式会社	鹿野山線	佐貫町駅(マザー牧場) 神野寺	鹿野山・宝竜寺・佐貫地区唯一の公共交通、佐貫町駅、君津中央病院、大佐和分院等への通院、上総湊・大貫・君津・木更津地区への買い物、佐貫小学校への通学に必要。	平成27年度と同程度の乗車密度を維持する。	2.7	収支が改善される。	バス車内に補助路線であることの掲出。乗降調査実施JR接続考慮ダイヤ改正を検討。関係各市にお願いし広報紙・HPで補助路線であることを広報し利用促進に努める。観光施設へのバス利用案内の依頼・イベントポスター等掲出
1 6	館山日東バス(株) 鴨川日東バス(株)	館山鴨川線	館山駅前・亀田病院(和田・鴨川駅)	・館山市、南房総市、鴨川市沿線住民の亀田病院、安房地域医療センター等医療機関への通院 ・館山市、南房総市、鴨川市等への通勤及び各学校への通学	平成27年度の乗車密度、収支率を維持する。	乗車密度4.4 収支率72.62% 輸送人員54,795人	現状が維持出来る。	・市町村の広報誌を利用し利用促進努める。 ・車内、当社ホームページに補助金路線であることを広報し利用促進に努める。 ・旅館業協同組合や沿線の医療機関(亀田病院・安房地域医療センター)との連携を図り、利用促進に努める。

No.	事業者名	系統名	起点・終点 (主な経由地)	1. 目的・必要性	2. 目標		3. 効果	4. 取組
					指標	目標値		
					達成すべき効果・変化の尺度	設定した指標の達成すべき数値		
17	館山日東バス株式会社	市内線	館山航空隊・小浜(館山駅前・なむや)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館山駅までの通勤。</li> <li>・亀田ファミリークリニック館山等市内各所医療機関への通院。</li> <li>・イオンタウン等商業施設への買い物。</li> <li>・市内各高校への通学、富浦地区小学生の富浦小への通学。</li> </ul>	平成28年度の運送収入目標を維持する。	19,458,357円	現状が維持できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村の広報誌に補助路線であることの広報とバス車内に補助路線であることを広報し、利用促進に努める。</li> <li>・医療機関への配布用時刻表等の配布を依頼する。</li> </ul>
18	ちばフラワーバス(株)	八街線	成東駅・八街駅(埴谷)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通勤・通学の交通手段(山武市・八街市2つの小学校の学童送迎)</li> <li>・福祉施設への交通手段、さんむ医療センターおよび八街総合病院への通院手段</li> <li>・生活必需品の購入等の移動手段</li> </ul>	利用者及び収入	ICカード利用者が増え、総利用人数が減ったが健常者利用が増え収入が増えています。今後も路線PR活動を2市と取組、利用者・収入面ともに1%アップを目指します。	利用者が増加し、収入が増える。	出張定期販売(ダイヤモンドパス含む)。関係2市の広報紙も含め花見(桜)時期に路線PRをする。学童定期の千円を超える額に対し補助(山武市)。また、今後運転免許証返納者をターゲットに利用者を募る(ノーカーアシスト)。
19	ジェイアールバス関東(株)	多古本線	八日市場(多古)成田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・匝瑳高校、多古高校への通学</li> <li>・三里塚地域の旅客の通勤・通学・買い物</li> </ul>	平均乗車密度の回復	平均乗車密度をH26年度程度まで回復(4.8)	利用者数の維持、増加。	各市町HPから路線時刻表へのリンクにより、利用者への運行時刻の周知を行う。また、各自治体の各種広報媒体を使用して、利用促進に努める。さらに多古台バスターミナル近隣の新興住宅地に、地元自治体の協力を得つつ利用促進の呼びかけを行い、利用者数増加をはかる。
20	ジェイアールバス関東(株)	南房州本線	館山(安房神戸)安房白浜	安房高校、神戸小学校への通学、館山病院への通院、館山駅から千葉・東京方面への通勤に必要。	平均乗車密度を維持させる。	平均乗車密度を引き続き5以上確保する	運送収入の確保	適時、乗降人員調査や、地元自治体の協力を得てアンケート調査を実施することにより、利用者ニーズを把握して、ニーズに合った運行とするよう努めて、利用者を確保する。
21	鴨川日東バス(株)	木更津線	亀田病院・イオンモール木更津(木更津駅西口)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沿線住民の亀田病院等医療機関への通院</li> <li>・沿線の職場(かずさアークDNA等)への通勤やJR駅の利用</li> <li>・沿線の各学校への通学</li> <li>・大型ショッピングモールへの通勤、買い物利用</li> </ul>	平成27年度の乗車密度、収支率、輸送人員を維持する。	乗車密度4.4 収支率55.58% 輸送人員55,735人	現状が維持できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村の広報誌を利用し利用促進に努める。</li> <li>・車内、当社ホームページに補助金路線であることを広報し利用促進に努める。</li> </ul>

No.	事業者名	系統名	起点・終点 (主な経由地)	1. 目的・必要性	2. 目標		3. 効果	4. 取組
					指標	目標値		
					達成すべき効果・変化の尺度	設定した指標の達成すべき数値		
2 2	鴨川日東バス(株)	金谷線	亀田病院・東京湾フェリー(鴨川駅)	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿線住民の亀田病院、国保病院等医療機関への通院</li> <li>沿線の職場への通勤やJR駅の利用、各学校への通学</li> </ul>	平成27年度の乗車密度、収支率、輸送人員を維持する。	乗車密度 3.9 収支率 59.85% 輸送人員 28,356人	収支改善につながる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村の広報誌を利用し利用促進に努める。</li> <li>車内、当社ホームページに補助金路線であることを広報し利用促進に努める。</li> <li>運行路線が一部重複する長狭線との間で、ダイヤ、便数等の調整を検討する。</li> <li>金谷～亀田病院の往復乗車券の販売を観光協会と共同で販促強化。</li> </ul>
2 3	鴨川日東バス(株)	市内線(興津・行川アイランド系統)	鴨川駅・興津駅(天津駅)	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿線住民の亀田病院等医療機関への通院</li> <li>沿線の職場への通勤やJR駅の利用、各学校への通学</li> </ul>	平成27年度の乗車密度、収支率、輸送人員を維持する。	乗車密度 3.5 収支率 71.44% 輸送人員 92,214人	現状が維持できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村の広報誌を利用し利用促進に努める。</li> <li>車内、当社ホームページに補助金路線であることを広報し利用促進に努める。</li> <li>利用者の利便性向上のために導入したバリアフリー車両の運行について、広報に努める。</li> <li>旅館業協同組合や沿線の医療機関(亀田病院)との連携を図り、利用促進に努める。</li> </ul>
2 4	鴨川日東バス(株)	市内線	仁右衛門島入口・天津駅(鴨川駅)	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿線住民の亀田病院等医療機関への通院</li> <li>沿線の職場への通勤やJR駅の利用、各学校への通学</li> </ul>	平成27年度の乗車密度、収支率、輸送人員を維持する。	乗車密度 2.5 収支率 58.86% 輸送人員 67,219人	現状が維持できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村の広報誌を利用し利用促進に努める。</li> <li>車内、当社ホームページに補助金路線であることを広報し利用促進に努める。</li> <li>旅館業協同組合や沿線の医療機関(亀田病院)との連携を図り、利用促進に努める。</li> <li>利用者の利便性向上のために導入したバリアフリー車両の運行について、広報に努める。</li> </ul>
2 5	京成バス株式会社	北部循環線	草野車庫・いきいきプラザ(八千代台駅経由)	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通不便地域のバス路線の確保。</li> <li>地域における主要駅である八千代台駅への交通手段として必要。</li> <li>公共施設「いきいきプラザ」等を利用される高齢者・子供への交通手段として必要。</li> <li>地元自治会、千葉市からのバス路線維持への強い要望。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の収支率向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収支率1%の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収支改善及び利用者の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者世代を中心に路線バスへの親しみをもってもらっていただく為、沿線にある観光名所や商業施設、スポーツ施設などを紹介したルートマップや、バスの乗車方法をわかりやすく紹介したリーフレットを作成し、自治会と連携してポスティング等により幅広く配布することで、地域の魅力とバスの利便性をPRする。</li> <li>協議会へ寄せられた改善要望や問題点に対し早急に対応することで、地域住民に愛されるバス路線を目指す。</li> </ul>

3. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者

別紙のとおり（表1）

4. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額

別紙のとおり（表2）

5. 別表4の補助事業の基準ニに基づき、協議会が平日1日当たりの運行回数が3回以上で足りると認めた系統の概要（表3）

該当なし。

6. 別表4の補助事業の基準ハに基づき、協議会が「広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されている」と認めた市町村の一覧（表4）

別紙のとおり（表4）

7. 車両の取得に係る目的・必要性

輸送人員の減少等により運行の維持が困難となっている上記路線については、赤字路線のためバスの更新がなかなか進まない状況なので、国の車両減価償却費補助金を活用してノンステップバス等を導入して、利用者の利便性の向上や赤字路線のバス利用の促進を図る。

8. 車両の取得に係る定量的な目標・効果

バリアフリー新法（高齢者、障害者等に移動等の円滑化の促進に関する法律）に基づく国の基本方針に沿い、路線バス車両におけるノンステップバスの導入率を32年度までに70%を目標とする。（千葉県現状：ノンステップバスの導入率 51.3%）

9. 車両の取得計画の概要及び車両の取得を行う事業者、要する費用の総額、負担者及びその負担額

別紙のとおり（表6及び表7）

10. 協議会の開催状況と主な議論（自由記述）

- ・平成28年1月～2月 各分科会WGにて協議（国・県・関係市町村・バス協会・関係バス事業者）
- ・平成28年5月24日 千葉県バス対策地域協議会開催

11. 利用者等の意見の反映状況

国・県・関係市町村のホームページ等にて本計画に関する意見を募集。

## 12. 協議会メンバーの構成

関係都道府県	千葉県総合企画部長 遠山 誠一
地方運輸局	国土交通省関東運輸局千葉運輸支局 齋藤 隆
地方運輸局	国土交通省関東運輸局自動車交通部長 山本 英貴
千葉県市長会を代表する者	旭市長 明智 忠直
千葉県町村会を代表する者	東庄町長 岩田 利雄
交通事業者	千葉県バス協会長 飯島 俊一
学識経験者	日本大学名誉教授 榛澤 芳雄